

令和8年度 いわて林業アカデミーカリキュラム

令和8年7月2日（木）に、いわて林業アカデミー研修生17名を対象に、盛岡森林管理署及び遠野支署職員と遠野猟友会副会長兼事務局長を講師として、「国有林における獣害被害とその対策」の研修が行われました。

この研修は近年被害が拡大しているニホンシカ（以下シカ）等の被害状況と被害対策を理解し、防除対策、狩猟に関する基礎知識を習得することを目的としています。

以下の4項目について、遠野支署管内の国有林において場所を移動しながら講義や視察を行い、学びを深めました。

【①東北森林管理局におけるシカ対策の取組について講義】

早池峰山総合休憩所前において、東北の国有林、シカによる森林被害状況、シカの増加原因と被害対策等について、概要の説明を行いました。

【②植生保護柵設置状況の視察】

早池峰山（標高1,917m）小田越登山道沿いの植生保護柵設置状況の視察が行われました。

早池峰山の植生保護柵は、岩手県、三陸北部署、遠野支署が令和元年6月に協定を締結し、希少な高山植物をシカの食害から保護することを目的として設置しています。

視察箇所は登山道入り口から歩いて5分ほどの標高1,300m付近でしたが、食害の範囲は1,800～1,900mとかなり上の方まで拡大していることや、植生保護柵設置の目的、設置状況について説明を行いました。

柵の外側では笹の食害が顕著で、保護されている内側の笹とは高さにはっきりと差があることや、柵の周りを歩いたと思われる足跡やシカの休み場となっている場所を視察し、被害が深刻であることを感じ取ることができたかと思います。

【③囲いわな等の設置方法及び捕獲手順について】

遠野支署管内の東恩徳国有林において、遠野猟友会副会長兼事務局長を講師に迎え、囲いわなの設置方法及び捕獲手順についての説明と、くくりわなの設置体験が行われました。

囲いわなの中には、シカをおびき寄せるための餌（ハイキューブ）と鉾塩を置き、職員がシカ役となって入りました。餌の手前に設置したワイヤーに触れると、後ろの仕掛けが瞬時に作動して勢いよくゲートが落ちる様子を、皆真剣に興味深く見学していたのが印象的でした。

【④シカを処理するための大型排水管を利用した残渣処理設備の見学】

この設備は新たな処理方法として遠野市が設置したもので、市内6基のうち国有林内には西恩徳国有林に1基設置されています。

従来の個体処理方法における課題（解体や埋設、焼却施設への搬入など捕獲者の心身の負担が大きい、クマが持ち去り捕食するなど）を改善し、処理負担を軽減することを目的として設置されたものです。

「令和6年に当支署、遠野市、遠野猟友会と残渣処理設備の内容を盛り込んだ設置のための土地を提供できるように協定書の見直しを行い設置されました。」

最後になりますが、研修生の皆さんにとって、今回の研修で習得したことが将来林業に就業した際に、大切な森林を獣害から守るための一助となりましたら幸いです。



シカ対策等の概要説明の様子



植生保護柵の説明の様子



囲いわなの説明の様子



残渣処理設備の説明の様子